アンケート「国際協力 NGO の企業連携実態調査」

<調査の主旨について>

平素より JANIC にご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

JANICでは、「平成23年度NGO研究会 テーマ:企業とNGOの連携」事業の一環として、更なるNGOと企業の連携促進のため、「国際協力NGOの企業連携実態調査」を行うこととなりました。下記 、 を調査の目的とし、 責会の企業連携に対する意識、連携実績等について伺わせていただきた〈存じます。

本調査の目的

連携先 NGO を探す企業にとって、効果的な情報の提供

本アンケートの回答の一部 1を JANIC のウェブ版 NGO ダイレクトリー(リンク http://www.janic.org/directory/) へ掲載 -

本アンケートの分析結果を活用した、効果的な JANIC の NGO と企業の連携の促進活動の実施

当サイトへの訪問ユーザーは 2011 年 4 月 ~ 9 月実績で約 11 万ピジット / 月の利用があり、その数は増加傾向にあり、連携する NGO を探す企業にも活用されています。 JANIC としては、今回の調査をもとに、NGO と企業の連携強化に向けて努力をしてまいります。

ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

国際協力NGOセンター(JANIC) 事務局長 山口誠史

【回答情報について】

印のついている Q1、Q2、Q3-1、Q4~Q6、Q7-SQ2、Q7-SQ4は、NGO ダイレクトリーの貴 NGO の情報ページに掲載します。2012 年 3 月までに掲載予定です。

ご提供いただきました貴 NGO の情報は、本調査の目的に限り使用いたします。

本調査は、NGO ダイレクトリーに掲載されている NGO 団体向けのものです。掲載されていない団体からのご回答は、無効です。

「」は記入必須項目です。

【語句について】

- ・「連携」とは、「持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題解決を目的として、お互いの特性を認識し、 資源や能力などを持ち寄り、対等な立場で協力して活動すること」を指し、例としてはQ3の選択項目のよう な形態が挙げれます。なお、本アンケートでは会員制度については「連携」の定義に含みません。
- ・「企業」とは、ここでは「営利を目的とする企業」を指します。

団体名: 回答者名:				
回答者名:	団体名:			
	回答者名:			
回答者メールアドレス:	回答者メールアドレス:			

貴NGOの「企業連携に関する方針」ならびに「情報公開」についてお伺い

します。

(注1) 印のついている Q1、Q2、Q3-SQ1、Q4~Q5 は、NGO ダイレクトリーの貴 NGO の情報ページに掲載します。

Q 1

現在の企業連携についての方針をお聞かせください。(ひとつだけ選択)

- **積極的に推進していく** 1.
- 問い合わせがあれば応えていく 2.
- あまり推進するつもりはない 3.

[Q1]にて1または2と記入された方にお伺いします。

「3.あまり推進するつもりはない」と回答された方も過去状況等を鑑み、[Q4]から1引き続きご回答く ださい。

Q 2

連携する企業側にどのようなことを望みますか。(ひとつだけ選択)

NGO 活動への理解 1.

- CSRとして取組む社会問題の明確化 2.
- 3. CSR として取り組む社会問題の消費者 4. 連携の目的・理念の共有 へのアピール
- 社員に対する社会問題に関する教 6. 5. 定期的なNGOとの対話

育

- 環境や社会に配慮したビジネス活動 8. 社会問題への継続的な支援 7.
- 9. その他(記述:

Q 3 貴NGOとして、今後どのような企業連携を推進していきたいですか。(複数選択可)

- 1. 特定プロジェクト・イベント・セミナーキャンペ 2. 使途を限定しない寄付や助成金、協賛 ーン等への寄付や助成金、協賛
- 3. 商品・製品・機械等の提供

- 4. 施設の提供
- 国内)
- 5. 企業からのボランティアの受け入れ(日本 6. 企業からのボランティアの受け入れ(プロジ ェクト実施国)
- 7. 企業からのプロボノ(専門性を生かしたボラ 8. 企業からの専門家(理事などのマネジメント ンティア)の受け入れ
 - 含む)の受け入れ
- 9. イベント・セミナー・キャンペーン等の共催・ 10. 社員教育

後援名義

- 11. CSR 調達コンサルティング
- 12. 企業のステークホルダーダイアログへの参

加

13. アドバイザリー(助言委員会)や社外取締 14. コーズマーケティング

役としての企業のガバナンスへの参加

15. BOP ビジネス

16. その他(記述:

	入ください。					
最	も推進したい企業連携		番			
2 1	番目に推進したい企業連携	E 5	番			
3 1	番目に推進したい企業連携	5	番			
Q 4 情報I	貴 NGO のウェブサイトでご こは、「企業連携を推進してい			公表しています	すか。(ひとつだけ選択	()
1.	全て公表している	2.	一部公表している	3.	公表していない	
Q 4 - 9	Q1 Q4にて1または2 企業連携に関する情報 URL: 貴NGOでは企業連携ポリ	の掲載	されているホーム・			
1.	明文化している 2.	阳	ᄼ ᆉᄼᅛᄼᅔᆘᇰᄉᆃᆉᅥᆉ	3.	叩かルトテいかい	
	7)X100 CV:0 2.	-/)	文化を検討中	ა.	明文化していない	

上記の回答のうち,,最も推進したい~3 番目に推進したい企業連携の番号を記

Q3-SQ1

ここからは、企業連携に関する活動実績についてお伺いします。

(注1) 印のついている Q6、Q7-SQ2、Q7-SQ4は、NGO ダイレクトリーの貴 NGO の情報ページに掲載します。

Q 6 貴 NGO では、これまでに企業連携を行った実績がありますか?(現在継続中のものを含む)

2. 1. ある ない

[Q6]にて「1」と記入された方にお伺いします。 [Q6]にて「2」と記入された方は[Q8]から回答ください

[Q7]では、過去1年間()の活動について伺います。(「過去1年」については、2010年4月1日~ 2011 年 3 月 31 日としてご回答〈ださい。)

Q 7 過去 1 年間(2010 年 4 月 ~ 2011 年 3 月)で、おおよそどのくらいの企業連携の件数がありま したか。(現在継続中のものを含む)

件

過去1年間(2010年4月~2011年3月)の企業連携として、どのような形態があり Q7-SQ1 ましたか。(複数選択可)

- 1. 特定プロジェクト・イベント・セミナーキャンペ 2. 使途を限定しない寄付や助成金、協賛 ーン等への寄付や助成金、協賛
- 3. 商品・製品・機械等の提供
- 4. 施設の提供
- 5. 企業からのボランティアの受け入れ(日本 6. 企業からのボランティアの受け入れ(プロジ 国内)
- ェクト実施国)
- ンティア)の受け入れ
- 7. 企業からのプロボノ(専門性を生かしたボラ 8. 企業からの専門家(理事などのマネジメント 含む)の受け入れ
- 9. イベント・セミナー・キャンペーン等の共催・ 10. 社員教育

後援名義

- 11. CSR 調達コンサルティング
- 12. 企業のステークホルダーダイアログへの参

加

- 13. アドバイザリー(助言委員会)や社外取締 14. コーズマーケティング

役としての企業のガバナンスへの参加

15. BOP ビジネス

16. その他(記述:

Q7-SQ2 上記の回答のうち、 件数の多い順に番号を記入く		~ <mark>2011 年 3 月</mark>) <mark>の企業連携</mark> として、 から選択)
1番目に多い企業連携	番	
2番目に多い企業連携	番	
3番目に多い企業連携	番	
Q7-SQ3 過去1年間(2010年 りましたか。(複数選択可)	4月~2011年3月)の企	業連携として、どのような分野があ
1. 農業·漁業·開発分野	2. 経済分野	3. 教育·職業訓練分野
4. 保健·医療分野	5. 飢餓分野	6. 災害分野(東日本大震
		災以外)
7. 東日本大震災		9. 平和·政治分野
10. 人権分野	11. 政策提言分野	12. その他
		:して、件数の多い順に番号を記入
ください。(上記の数字の中から	连扒)	
1番目に多い企業連携	番	
2番目に多い企業連携	番	
3番目に多い企業連携	番	

Q 8	昨	年度(貴 NGO の会計	 期間における昨年度としてご回答〈ださい)の企業からの寄付金(助成
	金	、協賛金含む)のおよ	その年間総額を教えて〈ださい。(会費は除〈)
		万円	

Q8-SQ1 上記の金額は、前年度と比較して、どの程度の増減ですか。(ひとつだけ選択)

- 1. 5 倍以上伸びた 2. 3~4 倍程度伸びた 3. 1~2 倍程度伸びた
- 4. あまり変わらない 5. 1~2割程度減った 6. 3~4割程度減った
- 7. 5割以上減った 8. ほとんどなくなった

Q 8 - S Q 2	寄付金(助成金、協賛金含む)が増減したところの主な理由を教えてください。	

Q9 貴NGOの東日本大震災に関する支援活動についてお答えください。(ひとつだけ選択)

1. 現在活動してい 2. 過去活動したが現在は活動していな 3. 活動していない る い

ここからは、直近 6 ヶ月間の「企業からの問い合わせ」と「貴 NGO からのアプローチ」

について伺います

Q 1 0	直近6	ヶ月間では「連携、	寄付」など、	企業側からの問い合物	つせがあった件数は	まどの程度あ
	りますか。	(第三者からの紅	四介も含む)			

件

上記回答の直近6ヶ月間の企業側からの問い合わせは、昨年同期間と比較して Q 1 0 -SQ 1 どのような増減の傾向がありますか。(ひとつだけ選択)

- 5 倍以上伸びた 2. 3~4 倍程度伸びた
- 3. 1~2 倍程度伸びた

- 4. あまり変わらない
- 5. 1~2割程度減った 6. 3~4割程度減った

- 7. 5割以上減った
- 8. ほとんどなくなった

|Q10-SQ2| 上記Q10の回答のうち、企業連携に至った件数はどの程度ありますか。(現在継 続中の案件を含む)

件

Q10-SQ2 にて「1件以上」と記入された方にお伺いします。 Q10-SQ2 にて「0 件」と記入された方は Q11から回答ください

直近6ヶ月間の企業側からの問い合わせにより、企業連携に至った中で、どのよ Q 1 0 - SQ 3 うな形態がありましたか。(複数選択可)

- 1. 特定プロジェクト・イベント・セミナーキャンペ 2. 使途を限定しない寄付や助成金、協賛 ーン等への寄付や助成金、協賛
- 3. 商品・製品・機械等の提供
- 4. 施設の提供
- 国内)
- 5. 企業からのボランティアの受け入れ(日本 6. 企業からのボランティアの受け入れ(プロジ ェクト実施国)
- ンティア)の受け入れ
- 7. 企業からのプロボノ(専門性を生かしたボラ 8. 企業からの専門家(理事などのマネジメント 含む)の受け入れ
- 9. イベント・セミナー・キャンペーン等の共催・ 10. 社員教育

加

後援名義

- 11. CSR 調達コンサルティング
- 12. 企業のステークホルダーダイアログへの参
- 13. アドバイザリー(助言委員会)や社外取締 14. コーズマーケティング

役としての企業のガバナンスへの参加

15. BOP ビジネス

16. その他(記述:

			直近 6 ヶ月間の企業側か [に番号を記入ください。(上	からの問い合わせにより、企業連携 :記の数字の中から選択)
1番	目に	多い企業連携	番	
2番	目に	多い企業連携	番	
3 番	目に	多い企業連携	番	
		<u>直近 6 ヶ月間の企</u> 野がありましたか。(複		より企業連携に至った中で、どのよ
	1.	農業·漁業·開発分野	2. 経済分野	3. 教育·職業訓練分野
		保健·医療分野		6. 災害分野(東日本大震
				災以外)
	7.	東日本大震災	8. 環境分野	9. 平和·政治分野
			11. 政策提言分野	12. その他(記述:
った	:中で		t 6 ヶ月間の企業側からの tを記入ください。(上記の数 番)問い合わせにより、企業連携に至 女字の中から選択)
2 番	目に	多い企業連携	番	
3番	目に	多い企業連携	番	

ここからは、「貴 NGO からのアプローチ」について伺います。

Q 1 1 直近6ヶ月間では、企業連携に関して貴 NGO 側からアプローチした件数はどの程度ありま すか。

件

上記回答の直近6ヶ月間の貴NGO側からのアプローチは、昨年同期間と比較し Q11-SQ1 てどのような増減の傾向がありますか。(ひとつだけ選択)

- 1. 5 倍以上伸びた 2. 3~4 倍程度伸びた
- 3. 1~2 倍程度伸びた

- 4. あまり変わらない
- 5. 1~2割程度減った
- 6. 3~4割程度減った

- 7. 5割以上減った 8. ほとんどなくなった

上記 Q11の回答のうち、企業連携に至った件数はどの程度ありますか。 Q11-SQ2

件

Q11-SQ2にて「1件以上」と記入された方にお伺いします。

Q11-SQ2にて「0件」と記入された方はQ12から回答〈ださい

直近6ヶ月間の貴NGO側からのアプローチにより、企業連携に至った中で、どの Q11-SQ3 ような形態がありましたか。(複数選択可)

- 1. 特定プロジェクト・イベント・セミナーキャンペ 2. 使途を限定しない寄付や助成金、協賛 ーン等への寄付や助成金、協替
- 3. 商品・製品・機械等の提供
- 4. 施設の提供
- 国内)
- 5. 企業からのボランティアの受け入れ(日本 6. 企業からのボランティアの受け入れ(プロジ ェクト実施国)
- ンティア)の受け入れ
- 7. 企業からのプロボノ(専門性を生かしたボラ 8. 企業からの専門家(理事などのマネジメント 含む)の受け入れ
- 9. イベント・セミナー・キャンペーン等の共催・ 10. 社員教育

後援名義

- 11. CSR 調達コンサルティング
- 12. 企業のステークホルダーダイアログへの参
- 加
- 13. アドバイザリー(助言委員会)や社外取締 14. コーズマーケティング
- 役としての企業のガバナンスへの参加
- 15. BOP ビジネス

16. その他(記述:

	<u> </u>		側からのアプローチにより、企業連 (上記の数字の中から選択)
1番	目に多い企業連携	番	
2番	目に多い企業連携	番	
3 番	目に多い企業連携	番	
_	- 5 Q 5 <u>直近 6 ヶ月間</u> の貴 Dような分野がありましたか。		により、企業連携に至った中で、ど
	1. 農業・漁業・開発分野	(3. 教育·職業訓練分野
	4. 保健・医療分野		6. 災害分野(東日本大震
	1. 水陡 区凉力到	0. W(U)(7) E)	災以外)
	7. 東日本大震災	8 晋倍分野	9. 平和·政治分野
	10. 人権分野	11. 政策提言分野	12. その他(記述:
携は	SQ6 上記の回答のうち、 こ至った中で、件数の多い順 多い企業連携		<mark>側からのアプローチにより、</mark> 企業連 :記の数字の中から選択)
		番	
2番	目に多い企業連携	番	
3番	目に多い企業連携	番	

企業連携の推進上の取組み及び課題についてお伺いします。

|Q12||連携を推進していくために、どのような取組みを行っていますか。

<a.目標管理面>(複数選択可)

- 1. 推進目標(件数)を設定している
- 2. 連携を推進する業種、業態、企業名等が明 確になっている
- 3. 連携を推進する企業に対し担当者が明 4. 目標に対しての進捗管理を行っている。 確になっている
- 5. 連携を推進する企業のリストのデータベ 6. 企業のビジネスサイクルに応じた提案活動を している
- ース化(顧客カード)をしている 7. 特に何も実施していない
- 8. その他(記述:

< b. 広報 PR 面 (複数選択可)

- 1. WEBコンテンツの充実
- 3. 企業訪問の強化
- 5. 企業の方が集まる会合への出席
- 7. その他(記述)

- 2. セミナー・イベントの充実
- 4. パブリシティ活動(プレスリリース等)の強化
- 6. 特に何も実施していない

< c. 人材育成面 > (複数選択可)

- 1. 外部機関への研修へ派遣
- 3. 社内の人材による勉強会の実施
- 5. 通信教育の実施
- 7. その他(記述:

- 2. 社内の人材による OJT の実施
- 4. 外部講師を招いての研修会の実施
- 6. 特に何も実施していない
- Q 1 3 貴NGOが企業連携を推進していくうえで、どのような課題がありますか。(複数選択可)
 - 1. 人的な数の不足
- 2. 人的な資質の不足
- 3. 活動/ウハウ不足

- 4. 意欲の不足
- 5. NGOそのものの認知不 6.
- 自団体の認知不足

- 足
- 企業へのアプローチ不足 8. 7.
- 活動資金不足
- 特にない 9.

- 10. その他(記述
 - Q 1 3 S Q 1 上記のうち、最も重要な課題の番号を記入ください。(上記の数字の中から 選択)

番

Q14 連携を推進していくためのスキル・知識に関する次の各文章について、自組織における「重要度」と「習熟度」をそれぞれお選びください。組織全体のレベル感でお考えください。(「重要度」、「習熟度」の評価項目1~3から、それぞれひとつ選択)

		重要度				習熟度			
			高い		低い		習 熟		不足
		_	3	2	1	•	3	2	1
a	ビジネスマナー								
b	企業活動の理解								
С	CSR活動の理解								
d	マーケティング思考								
e	ロジカルシンキング (論理的思考)								
f	ソーシャルメディア活用								
g	企画力								
h	提案力								
i	ドキュメント作成力								
j	コミュニケーション力]			
k	その他()記入								
1	その他()記入								
m	その他()記入								
n	その他()記入								

回答は以上で終了です。 ご協力ありがとうございました。